

Spine Surgery and Related Research (SSRR)

第 18 回 (2022 年第 2 回) 編集委員会 議事要録

令和 4 年 6 月 28 日 Web 開催

1. 確認事項

① 委員会メンバー確認・挨拶(五十音順, 敬称略・*は今期から就任)

担当理事: 筑田博隆*

Editor-in-Chief: 千葉一裕

委員長: 折田純久

委員: 岡田誠司*, 川口善治, 高橋寛, 中嶋秀明, 根尾昌志, 橋爪洋, 宮腰尚久*, 山下一太*, 渡邊慶*,

アドバイザー: 加藤真介, 長谷川和宏

DE のみ委託(委員経験者): 川上守, 伊東学, 藤田順之

② SSRR 沿革・概要の確認

・2017 年 1 月創刊, 現在第 6 巻, 年 6 回発刊(奇数月, 2021 年より)

・委員の役割: Deputy Editor (reviewer 選定, decision 付与等), 編集方針策定, Paper Award 選出業務(新規)

・掲載データベース: J-stage, PubMed, Google Scholar, Scopus

・査読言語: 英語のみ

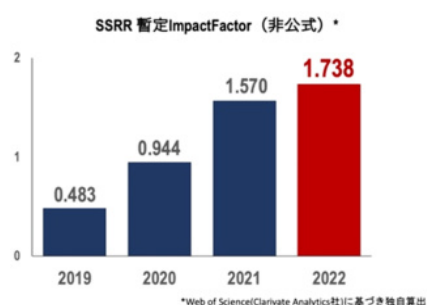
・著作権方針

本誌の著作権は JSSR に帰属(学会出版): 著作権に関する方針は, 全て学会が独自の基準で決定でき, 二次利用含む著作権管理を学会が決めることが可能である. 二次利用にあたっては, 以下を要件とする.

- 原作者のクレジットを表示(引用表示)
- 個人で図などの二次利用・改変は可能だが元のライセンスも公開
- 製薬会社などの営利目的での二次利用は許諾が必要

③ SSRR と IF 取得

a. SSRR をとりまく現状について



過去 2 年間の被引用件数
獲得が重要・急務

- 現在は, IF 付与対象外データベースである ESCI (Emerging Sources Citation Index) に掲載
- IF 付与対象となる SCI (Science Citation Index) への掲載要件: 高い被引用率の維持と領域の上位 50% に入ること, および継続的な被引用回数
- 被引用回数にカウントされるのは, 過去 2 年間の掲載論文のみ
- 現時点での Orthopedics 領域の中央値 IF は 2.362 (まずはこのあたりの暫定 IF を超えていないと SCI へ掲載される評価が行われない)
- 現在の SSRR の暫定 IF は 1.729 であり, 2.4 程度を目標値とする



b. IF 取得に向けた方策

① 既存方針の確認

- ・Case Report: Case Correspondence 形式. Abstract なし, 短編記事として掲載(IF 算定の際の発行論文には非加算)
- ・ひとこと要約: 日本人著者に 50 語程度のサマリーを依頼
- ・特集号の編集: ガイドラインを中心に(済: OPLL, 進行中: 腰部脊柱管狭窄症, 腰椎椎間板ヘルニア, 頸髄症性脊髄症)
- ・Review Article: 委員推薦著者による Invited Review を, その年の前半を中心に掲載

② 協議内容

Reject 率の向上について: Editor-in-Chief による immediate reject (海外論文を中心に 2 割程度). 現在の採択率は 30%程度. 採用に迷う論文は reject とする方が IF 向上に有効

④ SSRR Paper Award: 2023 年より施行予定(賞金予算承認済)

- Best Paper Award (前年度掲載論文対象): SSRR への投稿論文促進と, 質向上
- High Citation Award (3 年前の掲載論文対象): 引用件数促進, 優れた過去論文の再評価
- Best Reviewer Award: 前年の Top Reviewers 首位者

これら Award は JSSR 総会中に表彰予定である. 山下委員を中心に運営していく方針

2. 報告事項

① 投稿状況, IF 関連情報など(杏林舎より)

a. 投稿状況について(資料 1)

今年のペースでは 250 編ペースの投稿数となっており, 海外からの投稿も増加してきており国際誌として運営状況は良好である.

- ・採択率について: reject 率は査読者に厳しめに審査を依頼することである程度コントロール可能. 現状では採用率が適正化されつつあり良質な論文が集まっている
- ・年に 1~2 回程度, DE の採用率などのデータを共有することが有用. ただし DE によって担当数や内容のばらつきがあるため, 採択率の差があるのはやむを得ない
- ・SSRR 内での自己引用も IF 向上に寄与する(20%程度まで. 現状は 8%程度). 集中的に組織の力を結集してより早期に IF 取得を働きかけることは有用であり, JSSR の公式ジャーナルなので, 学会を主導する先生方をお願いするべきである.
- ・その他の方策として, Accept されてから PubMed 掲載までの時間を短縮することが有用. このためには Advanced publication が PubMed に載るように対策を進める

b. IF 取得についての現状

現状では SSRR の掲載されるデータベースは IF 付与について検討段階. 継続的に被引用数が高いことが求められる.

対策: 注目論文ランキング 5 編程度を公開し会員への配信, および著名な先生方への Review 論文執筆依頼(・依頼論文の Review の被引用数が多い), 新規性独自性がある論文を掲載, ガイドライン・コロナ特集の周知などが有効. 投稿段階で過去 2 年間の SSRR 論文の引用を加えるように書いている雑誌もある

② ガイドライン特集号製作状況

JOS に英語版が公開されてから SSRR にダイジェスト版を掲載する方針
OPLL, LDH, LSS, CSM ガイドライン進捗報告

Advanced Publication は早期に集まったものを公開する方針

③ その他

HP のバナー改修について(ガイドライン特集号バナーを号別に分離)
OPLL ガイドラインは, "OPLL and OLF ガイドライン"に変更

3. その他

① 次回会議について

2022 年 9 月頃

② その他